令和7年度 第2回広陵町定例教育委員会 会議

○ 開会及び閉会

令和7年5月30日(金) 午後 3時25分開会
同日 午後 4時22分閉会

開催場所: 真美ヶ丘中学校 2階 図書室

○ 出席委員の議席番号、職名及び氏名

(教育長)植村佳央、1番委員:(教育長職務代理者)松井秀史、
2番委員:白井有香、3番委員:村田浩子

委員の他、会議に出席した者の職名及び氏名

教育振興部長	倉田 洋子
教育総務課長	梅本 和哉
教育総務課主幹	松本 哲知
教育振興部こどもまんなか部長	谷野 良隆
こども課長	佐々木 計也
こども政策課長	伊藤 哲
図書館長	尾藤 肇子
生涯学習課主幹	名倉 聡
スポーツ振興課長	南 雄太郎
教育総務課指導主事	辻 博暢
教育総務課指導主事	富田 英明

議案(1) 後援名義使用許可申請について

(LEARN with ソフトバンク～魔法のプロジェクト～ 魔法のキャラバン)

○**教育長** それでは、議案1、後援名義使用許可申請についてでございます。まず1つめは「LEARN with」ということで、広陵町特別支援教育研究会から申請が出ております。これについては教育総務課指導主事、説明をお願いします。

○**教育総務課指導主事** 広陵町特別支援教育研究会から「LEARN with ソフトバンク～魔法のプロジェクト～ 魔法のキャラバン」の申請が出ております。13ページをご覧ください。東京大学先端科学技術研究センターは、ソフトバンク株式会社と協力し、ICT(情報通信技術)を活用して学習に困難を抱える子どもたちの学習・生活支援を行う「LEARN with ソフトバンク～魔法のプロジェクト2025～」の募集を今年の2月から開始しています。このプロジェクトでは、日本国内の自治体、教育委員会、学校等を対象に、ICT機器の効果的な活用を学ぶ研修プログラムを実施し、教育現場でのインクルーシブ教育の推進を目指すとのことです。広陵町特別支援教育研究会がこのプロジェクトに応募し、実施できることになりました。内容は、東京大学の中邑先生の講演会、機器展示、相談会等です。実施場所は真美ヶ丘中学校で、実施日時は令和7年6月14日(土)9時から16時まで、参加対象者は教育関係者・児童生徒とその家族・自治体関係者で定員は合計120名、参加費は無料です。17ページから18ページに募集要項が、19ページに収支予算計画が添付されています。なお、実施が決まったのが5月の初めであったので申請が遅くなってしまったとのことです。以上です。ご審議をお願いします。

○**教育長** はい、ありがとうございます。これは今回初めての申請でございます。真美ヶ丘

中学校の通級指導担当で、コーディネーターをしていただいている先生が申請し、それが通ったということです。これについて委員の皆さんご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員B これは学校の先生は参加される予定なんですか。

○教育長 学校の先生も含めて周知していただけないのかなと思います。

○教育総務課指導主事 自由参加とのこと。周知しますが、土曜日の事でもありますので、自分で学習したいと思われる方が参加するという形になっております。

○教育長 特別支援担当の先生方には、できたら参加していただけたらなと思っております。私も顔を出そうと思っております。質問等、よろしいでしょうか。それでは、これについては承認ということをお願いします。

議案（１）後援名義使用許可申請について

（キッズ・マネー・スクール お買い物大作戦）

○教育長 それでは二つ目でございます。「キッズ・マネー・スクール お買い物大作戦」、一般社団法人マイ・リングからの申請です。教育総務課指導主事、お願いします。

○教育総務課指導主事 はい。一般社団法人マイ・リングから「お買い物大作戦」の申請が出ています。20ページをご覧ください。事業の概要は、お買い物体験を通して子どもたちにお金の大切さを学んでもらい、おこづかいの使い方などに役立ててもらい、保護者にはおこづかいを通してお金の価値が伝わるような渡し方のアドバイスも実施するということです。参加対象者は4歳～8歳の子どもとその保護者で、定員は各回先着10組（大人10人、子ども15人～30人）、開催日時は7月19日（土）10時から12時までと、13時から15時までで参加費は無料です。開催場所はグリーンパレスとなっておりますが、会場を取れなかったため「はしお元気村」に変更になったと、一昨日に連絡がありました。本日の資料の差し替えには間に合いませんでしたが、訂正後の申請書を提出していただいております。21ページに収支予算、24ページから29ページにはマイ・リングの定款が、30ページ、31ページには配付予定のチラシが添付されています。以上です。ご審議よろしくをお願いします。

○教育長 はい、ありがとうございます。これも初めての申請になるかと思いますが、内容的には、これまでいろいろなところから申請のあった、いわゆる金融教育ですね。これについてご質問又はご意見等ございますでしょうか。

私の方から一つ質問です。収支予算書の収入の部に寄付金、スポンサー費となっておりますが、このスポンサーはどこになるのですか。

○教育総務課指導主事 配付予定のチラシにキッズ・マネー・スクールというロゴが入っていると思うのですが、そこがスポンサーになって、イベントを開催するそれぞれの社団法人などにお金を出しているようです。

○教育長 場所がグリーンパレスから元気村に変わったということですね。定員は保護者が10名で子どもが15名から30名ということになるんですね。

○教育総務課指導主事 兄弟での参加を想定してということですか。

○教育長 委員の皆さんはいかがですか。何か疑問に思われる点がございましたら出していただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。

○教育総務課指導主事 場所代の関係で収支予算書も少し変わってくると思いますので、それも含めて訂正後の資料をクラスルームに上げさせていただきます。去年、大和高田市と三宅町で同じような催しをして後援を受けたようです。

○委員B 定款を作られたときは事業内容に「生命保険の募集と損害保険の代理業」と書いてあるのですが、去年の臨時総会でそれを消して、高齢者や子どもを対象としたイベントや講演、研修などを加える変更をされているので、そこに力を入れようとしたのかなと想像します。これ、キッズ・マネー・スクールを通して講師になっておられる人は非常に多いですね。今まで特

にトラブル等もないようですので、いいのではないかなと思います。

○教育長 よろしいでしょうか。それでは、承認とさせていただきます。場所が変わりましたので収支予算書も変わる可能性があるということで、後ほどタブレットに掲載させていただきます。

議案についてはこの二つのみでございます。ご審議、ありがとうございました。

その他

○教育長 続いて「その他」ですが、まず私から報告です。5月12日から13日にかけて、東京で全国町村教育長会の定期総会がございました。総会後に研究大会等もありましたので、その報告書を作成いたしました。総会部分の報告は割愛しますが、会長や文部科学大臣の代理の田村主任視学官の挨拶を簡単にまとめています。2ページから4ページにかけては、「日本社会に根ざしたウェルビーイング教育をデザインする」ということで聞かせていただいた講演内容をまとめております。講師の方は東京大学を卒業されてから財務省や金融庁に長い間勤めておられて、現在は武蔵野大学のウェルビーイング学部の教授のほか、叡啓大学のソーシャルシステムデザイン学部教授もされています。ウェルビーイングという言葉は耳にされたことがあると思いますが、単純に直訳すれば良い状態を作るということになります。講師の方は2001年9月1日にアメリカで同時多発テロが起きたときにニューヨークのワールドトレードセンターのビルの中におられたそうです。たくさんの方が亡くなられた中、たまたま自分は命が助かったということで、命をなくしたつもりで、社会のためにこの命を役立たせたいという思いでウェルビーイングのことを伝えていこうとされたようです。講演の要約の4つ目に書いていますように、ウェルビーイングとは、端的に言えば「働く元気な状態、ウキウキとご機嫌な状態、わくわく生き生きとした状態」と言っておられました。人って、気持ちの上でいい状態を保っていれば何となく相乗効果でうまくいきますが、悪いことを考え出すと悪くなるというようなことがあります。そういったことをずっと話をされていました。特に、3ページから4ページのちょっと太く書いた部分です。学校現場に活かせる五つのヒントと書きましたが、これを次回の校園長会でも話していきたいと思っております。時間がないので、詳しくは読んでいただけたらと思います。

続いて、実践報告としましては「中標津町の教育」ということで、中標津町は、北海道の知床半島と根室半島の真ん中ぐらいいあって牛乳の生産高が全国で第3位というところです。中標津町では「牛乳で乾杯条例」というのを作っておられるところで、その実践報告をされていました。二つ目は岩手県の大槌町で、ここは東日本大震災でかなりの被害を受けられたところですが、大槌町では「ひょっこりひょうたん島」のモデルになった蓬莱島が有名で、井上ひさしさんの「吉里吉里人」の舞台となった町でもあります。また、竜王町教育長の話も聞かせていただきました。あとは、文部科学省初等中等教育局主任視学官の方からもいろいろお話しをしていただきましたが、詳細はまた報告書を読んでいただければと思います。以上です。

○教育振興部長 その他、ございませんでしょうか。

○教育長 こども課長、お願いします。

○こども課長 お手元にお配りしております「子ども・子育て支援事業計画」ですが、3月議会で可決され、同月の定例教育委員会でご報告させていただきましたものです。概要版が出来上がりましたので、少し遅くなりましたが配らせていただきました。また、タブレットにもデータを載せておりますので、ご一読いただければと思います。この計画に基づいて子ども・子育て支援を実施していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○教育長 概要版の説明とかはよろしいですか。

○こども課長 はい。

○教育長 それではまたご一読いただければと思います。もう一つありましたね。こども計画策定についてですね。こども政策課長お願いします。

○こども政策課長 私からは「広陵町こども計画」策定に向けた「こどもの意見反映ワークショップ開催要項（案）」についてご説明いたします。

この度、「広陵町こども計画」策定にあたり、子どもたちの意見を反映させた実効性ある計画作りを進めるべく、町内に在住在学する小学4年生から22歳までの方を対象とした意見聴取の一環としてワークショップを開催する運びとなりました。子どもたちが日々の暮らしや学校生活の中で感じている思いや課題、また、今後のまちや社会に対する希望や提案などを自由に語り合う機会を提供することにより、こどもまんなか社会の実現に向けた第一歩としたいと考えております。子どもたちの声を直接受け止め、現在の状況や潜在的なニーズを把握し、町の施策に反映していくことが目的でございます。開催についてでございますが、令和7年7月26日の土曜日と8月2日土曜日の2日間を予定しており、両日とも午前10時から正午まで開催いたします。会場は広陵町役場3階の大会議室で、対象年齢の幅と会場の広さを考慮いたしまして、募集定員は35名としております。募集期間は令和7年6月1日から7月11日までとし、申し込み方法については、小学4年生から中学2年生の児童生徒には学校を通じて案内チラシを配付し、チラシに記載されておりますQRコードを通じて応募していただく形式を予定しております。その他、町の広報誌、町のホームページおよび町公式LINEにもQRコードを掲載し、広く町内在住・在学の子どもや若者に周知を図ってまいります。なお、小学生の応募については保護者による手続きをお願いすることとしております。参加にあたり費用はかからず、参加者には記念品といたしまして、500円分の図書カードを進呈する予定でございます。ワークショップで取り上げるテーマにつきましては「こんな大人になりたい」「広陵町にこんな大人が増えてほしい」「私が思う幸せな町」などを想定しており、最終的には令和7年6月4日に開催いたします「子ども・子育て会議」において決定する予定でございます。本ワークショップで出された意見や提案については、記録整理の上、今後策定される「広陵町こども計画」の重要な参考資料とするとともに、議会や町民の皆様への説明資料にも反映してまいります。私からの説明は以上です。

○教育長 ありがとうございます。今のこども政策課長の説明について、委員の皆さんからご質問やご意見等はございませんでしょうか。

応募期間は6月1日から7月11日までということで、結構期間が長いと思いますが、応募人数が35名以上になった場合、先着順になるのでしょうか、抽選になるのでしょうか。

○こども政策課長 抽選という予定にはさせていただいております。

○こどもまんなか部長 若干幅を持たせようかとは思っています。40人ぐらいまででしたら対応可能だと思っております。

○教育長 それと、年齢層が小学校4年生10歳から22歳と結構幅が広いのですが、一部の年齢層に偏ってしまってもよくないですね。実際22歳で来てくれますかね、学生が。

○こども政策課長 人数的な部分も含めて、募集に関しては学校にお願いに行かなければならないとは思っているところです。まずは公募の状況を確認いたしまして、場合によっては小・中学校、高校や大学に足を運ぶことも考えています。

○教育長 委員の皆さんどうでしょう。何かご質問ございませんか。はい、それでは他にございませんか。教育総務課長、お願いします。

○教育総務課長 失礼します。前回の教育委員会でも少しお話をさせていただいた民生委員推薦会についてですが、今月末には推薦会委員の任期が切れるということで、新たに委員の選任を行う必要がございます。教育委員会からは現在、委員Aさんをお願いしておりますが、引き続き委員Aさんをお願いするか、他の委員さんで引き受けていただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員Aさんから、民生委員推薦会の委員の仕事がどういうものなのか、お話しいただくことはできますでしょうか。

○委員A なかなか難しい会議ですね。民生委員になる方が少ないので各分野から推薦をし

ていただくというのが大きな狙いだと思います。ところが、教育委員会としてどなたを推薦するかというとなかなか思い浮かばないので、自分も身の周りでそういう人がいるかどうか考えたりはしたんですが、前回、幸いにして民生委員の会長さんが見つけてこられて最終的に依頼するところまでずっと進めていただいたと思います。この会議に出席して発言を求められるということは特にはないのですが、前もってわかっていたら教育委員会の総意として「こんな適当な人いますよ」と言うことはできますけど、前はそんなことは全然わからないままに出たものですから、そのときは特に発言をすることはありませんでした。

○教育振興部長 私からも少し説明をさせていただきます。委員Aさんがおっしゃったように、欠員が出た地域の民生委員候補者を推薦してもらおうのですが、身の周りに民生委員にふさわしい方がいらっしゃったとして、その方が欠員の出た地域の方であればいいのですが、そうでない場合は推薦していただけないので、結局はどうしても自治会や大字が中心になって探していただくということになります。

○教育長 私も3年前にいろいろと聞かせてもらって、この地域のこの方の代わりに誰かいないかと言われましたが、なかなか難しいです。民生児童委員は教員のOBの方になっていただくケースも多いのかなと思います。今年度がまた3年に一度の改選になっていて、それに対しての推薦会となります。再任される方も何人かいるとは聞いておりますが、なかなか難しい部分はあると思います。

○委員A 私の家内も民生委員をさせてもらったことがあって、退任するときに次の方を探すのに本当にいろいろ手を尽くして探していました。民生委員に対する理解、民生委員の仕事の内容そのものに対する一般の人の理解が進んでないので、行政の中で適切な人の候補をあげていってあげないと、確かに苦勞されるのだらうなという気がしましたね。民生児童委員と「児童」がついているから推薦委員会の構成の中に教育委員が入っているのしょうから、教育委員会は知りませんというわけにはいかないと思うので、行って発言できるかどうかわかりませんが、他の方が無理であれば私が出席させていただいても構いませんが、6月12日でしたね。

○教育総務課長 はい。とりあえず1回目の会議は6月12日と聞いております。

○委員A 何時からですか。

○教育総務課長 午後2時からです。引き続きお願いいただけるのでしょうか。他の委員の皆様もいかがでしょうか。

○教育長 委員Aさん、申し訳ございませんがお願いします。

それでは、本日の定例会はこれで終わらせていただきます。